

19/11/11 河村たかし名古屋市長定例記者会見(名古屋城部分)

(名古屋市民オンブズマンによる半自動文字起こしアプリによる文字起こし)

記者:市長、先々週名古屋城のバリアフリー部会というのがあってそこで国際コンペで公募するバリアフリー4部門の中に垂直昇降装置というものが入っているんですけど

市長は以前にエレベーターつけないということははっきり明言されているんですけど、今回の垂直昇降装置、なんか舞台のセリだとか段差解消が一つのイメージだそうですけれど一見するとエレベーターのようにも見えるんですけどそこは市長としては違うんですか。

市長:エレベータ問題にも最近いろいろあるようです。

それで車いすの皆さんとか足の不自由なみなさんに失礼なこと言えんでしょう。何が失礼かという本物をみせないほうが失礼なんですよこれ。

そういう路線の中でね、何遍も言っているとけど福祉の皆さんでもエレベーターつけないでという方がもの凄いですから、これ。

その中でいろいろ言われた方で11人乗りを造ってくれと電動車いすプラスサポーター、梁10本いや柱10本梁30本とらないかんことになる、そうなると中鉄骨で造らにやいかんのですよ。そうなると400年前と違う建物になるのですよこれ。そういうのは失礼だがやあという福祉の皆さんにも。逆だちゅうの、冷たい気持ちって何でそんな気持ちが出てくるのちゅうの。

そういうことで行きますという前提でどういふものを作るかというのは色々とにかく始めからこれはいかんあれは遺憾というてもしょうがないもので、それと繰り返しますが、私はあそこで是非その名古屋城だけでなしに、犬山城も上がれるような工夫とか、名古屋城は結構低いんですよ広いから、姫路城でもいいですけどそれもできんか、またそれをさらに進んで、普通の民家の2階へ上がっていくええ工夫、足が悪くなるものでみんな歳食ってっていくと、そういうのが名古屋城のあそこをきっかけにして出来んかと考えておるわけ、世界の皆さんにどえりや喜ばれますに。

記者:さっき市長がおっしゃってた本物ってとこういふことで、個人的にはその昔の名古屋城の中に例えば階段を車いすのまま引き上げるとか垂直昇降装置を車いすの引き上げてあげるそういう技術をイメージしてたんですけど。どうも聞いていると垂直昇降装置っていうのは車椅子ごと例えば乗ってそのままウィーと垂直に上げる。

市長:そっからどうするかあと、降りるところ。

記者:とか、あと例えば床を抜いたりするようなことになるかもしれませんが。そういうのは、本物っていう点でいっても、まあOKだということなんですか。

市長:それはわかりませんね。価値観のことでそれは。だでそれはいかんと言う人もお見えになるだろうし、そのくらいは風呂の上のあれみたいに何んだ熱を遮るためにやりますがなあ、パタパタパタパタと蓋みたいやつを、そういうものならええでやないかとかねいろんなこと言われるけど、特に5階

が一番問題で、5階が一番ええ建物になるんで、竹中さんのあれみると分かるけどにそこには畳が一応ひかれるVIPルームになっとして。

やっぱり本当に400年前の情緒を味わえる場合にはどうなるのかっていうのはまだわからないのね。それぞれいろいろ提案してくれて。

これから議論しなあかんけど、やっぱり基本的には400年前に家康さんが造ったやつを忠実に復元して車いすの皆さんにも車いすでなくてもすわしでもすぐにどうなるかわからんでもうすぐ71だで足も上がらんようになるでそうなた人でもやっぱりそういう400年前の本物を味わえるとそこで。ということが親切じゃないのとわしは思うけど。

エレベーター論者に聞きたいわなんと冷たい考え方だと、高いとこに上がりただけかになっちゃいますよそういう話をすると。ということだでまだわからんと、いろんな提案していただきゃいいんじゃないですか。いろんな提案を。

記者:今のまま、今のまま担当の事務局が用意している素案のままでコンペするとすると、こういうウィーと垂直移動するものが部門としては入ってくるわけですけど。そうすると、ずっと史実に忠実ということにこだわってこられたと思うですけど、名古屋城天守の中でこういう動きが史実と整合性をどういうふうを考えられわけですか？

市長:とりはずしもできる常時設置というわけじゃないでしょ。

記者:元に戻せるという？

市長:まあそういう日も作ると、いやだという人もいますけど、そういうふうにしようという人いますよ福祉の日を作って。

記者:設置する日と設置してない日と。

市長:そういう考え方もありうるだろうし。

いろんな条件をこの際していくと、だけど僕が聞いている中ではやっぱり中京大学ウエイトリフティングクラブに頼んで、膝のまだ筋力あれがないらしいもんで。

何人かでみんなサポートして車いすの人なり車いすでなくても歩けれん人、目の見えん人もおるけれど、そういう人達を人力で上に行くんだけれどもそのためのサポートをアシストしていくんだけれども実は一番暖かいし会話ができるし事故が起きた時に逃げるじゃないですか。人間がおるからそれが今の技術ではいいと言った。

記者:それが市長の考える本命の技術だと考えるけどおもんだけれど国際コンペで垂直昇降装置を公募するっていうのは市長としてはOKだということですか。

市長:まあいいんでは。リニアの偉い人も言ってましたよ。留守電でのやり取りだけど

できるかも。理論的にはできる。階段の上ちょっと浮かせてシュートと上がっていくのは。できるけど、技術的には今ではいかん。もうちょっと何年間かかかるって言ってました。

記者：セリってあるじゃないですかあそこに事例として書いてある。あれは取り外しができないと認めないということですか。完全撤去にできないと認めないということですか。

市長：まあイメージとして、例えば5階ですわね。

一番上がって行って欲しいのはやっぱり5階ですから。皆さんに。

ここでエレベーターは僕が聞いとるのでは絶対いかん。

エレベーターの幅もあって、エレベーターが相当とらにやいかんと。

もういわゆるなんやこれという風になってしまう。5階の中でイメージをかためんといかんなあ。だけど忠実に造ってあるのはものすごい価値ですからね言うておきますけどこれは、物凄い価値ですよ。車いすの人達もその方が嬉しいですよ、絶対にできた場合、人力で上がっていったとしても、これが名古屋城の国宝1号だなんだってと言って、400年前の雰囲気味わえますからねでしょう。

高いところへエレベーター作るなとよういっているけど市民集会であるひとが、

「いや河村さんあんまりいうんだったら天守閣を二つ作りゃ」と初めはえっと思ったけど意外と合理的で、天守閣は別にああいう格好造らんでもいいけれど、5階と同じ高さのところに。

ちゃんと中だけはあそこへ行くと中はこうなってますよと。そこはエレベーターで上がれるようにするこっちは。エレベーター今の上を作るやつじゃないやつ。

記者：5階の雰囲気が変わるのを懸念されている？

市長：雰囲気というイージーな言葉ではなくて、英語でいえばオーセンティシユティですか。本物の性オリジナリティを味わうのが嬉しいんじゃないの？やっぱり。

記者：そういう意味では市長としては車いすの人や障害を持つる方にも5階もみてほしい。

市長：5階にあがって本物性がある5階もみてほしい。

記者：なぜバリアフリーに関して一階までは保証するといってますがけど市長の思いとしては一番本物性のある5階もみてほしい。

市長：はいそうです。不自由な方に5階まで上がってってもらいたい。その5階というのは竹中にいってほしいけど本物の5階ですよ。400年前のこれ、それがわしが言いたのは、1000年後の人たちにもそれを味わってもらいたい。